

2026-2027 年度 RI 会長メッセージ

CREATE LASTING IMPACT

持続可能なインパクトを生み出そう

ガバナー方針

「元気で なかよく 楽しく そして高潔に」

クラブ方針

「共にロータリーを語りあい 共に新たな価値を生み出そう」



名古屋空港ロータリークラブ

事務局/ 名古屋市中村区名駅 3-11-13

レジデンス鈴木 1101

【TEL】 052-446-6811 【FAX】 052-446-6812

E-Mail: rongoapt@mta.biglobe.ne.jp

会長/ 入谷 宏典

幹事/ 伊東 由之

公共イメージ向上委員長/ 大河 裕之

例会日/毎週月曜日 12:30~13:30

例会場/名古屋マリオットアソシアホテル

2250 回例会

2026年9月28日(月) 第 10 回

- 司 会 SAA 田邊 雅彦 君
- 点 鐘 会 長 入谷 宏典 君
- 例会行事 外来者卓話
新入会員入会式
- ゲ ス ト 小牧 RC 会長 佐藤 大五郎 君
小牧 RC 三輪 栄 君
「(有)ローライ」 伊藤 桂 様
「田中裕之税理士事務所」 田中裕之 様

会 長 挨 拶

名古屋空港ロータリークラブ 会長 入谷 宏典 君



皆さん、こんにちは。

本日も大勢の方にご参加いただきありがとうございます。
本日は外来者卓話ということで、第2760地区26-27年度地区米山奨学委員会 佐藤大五郎副委員長に卓話をしていただくのですが、彼とは22-23年度の同期クラブ幹事で今年度は同期クラブ会長と、そんな関係から今回の卓話も逆指名でお願いしたところ、快く引き受けていた

だきました。当クラブには中国からの留学生である何静さんを米山奨学生として受け入れさせていただいています。米山奨学について詳しくお話をしていただけるかと思えます。

佐藤副委員長、よろしくお願いします。

それから小牧ロータリークラブからビジターとして三輪栄さん、ゲストとして(有)ローライの伊藤 桂(いとう けい)様、田中裕之税理士事務所の田中 裕之(たなか ひろゆき)様もお見えになっています。どうか例会楽しんでってください。

そして本日はこの後、宇佐見 寛(うさみ ゆたか)さんの入会式があります。

また新しい方が入会されます。皆さんで盛大に歓迎してお迎えしましょう。

最後に、先日米山奨学生の総会に中島カウンセラーと伊東幹事の二人で参加してきました。

その折に、クラブの米山奨学に対する寄付累計額が3千万円を達成したということで本来なら地区大会の場所での表彰となるのですが、米山奨学生、学友の皆さんが見えるなか、クラブを代表して中島パスト会長に感謝状の授与で登壇していただきました。

これもひとえに空港ロータリークラブの皆さんが長年にわたり積み重ねてきた結果かと思えます。

後ほど伊東幹事から詳しい報告があるかと思いますが、以上で会長挨拶とさせていただきます。

本日もよろしくお願いします。

委 員 会 報 告

●出席報告(津留 健太 君)

本日の例会					
会員数	49		出席率	85.42	%
出席者	出席義務者	32	欠席者	出席義務者	7
	出席免除者	9		出席免除者	1
	出席合計	41		欠席合計	8

●ニコボックス報告(津留 健太 君)

いつも米山事業にご理解ご協力ありがとうございます。

地区米山奨学委員会 副委員長 佐藤 大五郎 君

またおじゃまさせていただきます。 小牧 RC 三輪 栄 君

佐藤大五郎会長、指名を快く受けていただき本日の卓話
 よろしくお願いいたします。
 宇佐見寛君、入会おめでとうございます。
 小牧 RC 三輪栄君、(有)ローライ 伊藤桂様、
 田中裕之税理士事務所 田中裕之様、
 ようこそ当クラブ例会へ。 入谷 宏典 君

宇佐見君おめでとうございます。
 佐藤君、卓話よろしくお願いいたします。三輪様ようこそ。
 伊藤桂様、田中裕之様、楽しんでいって下さい。
 伊東 由之 君

宇佐見君、入会おめでとう。 浅野 学 君

本日は小牧 RC 佐藤会長、卓話宜しくお願います。
 伊藤 康司 君

佐藤地区副委員長、卓話よろしくお願います。
 大野 和宏 君

名川さん、ありがとう！ 金井 和治 君

三輪さん、ようこそ。 川口 直也 君

ローライ伊藤様ようこそお越し下さいました。
 是非入会お待ちしております。 杉本 敦永 君

田中さん、ロータリーへようこそ！
 是非これから一緒に参加してロータリアンしましょう。
 秦名 哲平 君

宇佐見君の入会を祝して！ 原田 好展 君

今日も元気で！

本日の協力			40 名	76,000 円
本年度の協力累計				832,000 円

池田 友也 君	市川 孝 君	稲熊 正徳 君
稲吉 将秀 君	井上 辰男 君	内海 辰巳 君
大河 裕之 君	片山 映理子 君	香月 弘平 君
栗田 和典 君	近藤 和彦 君	佐藤 進一 君
澤田 光史 君	菅沼 智大 君	鈴木 恵一 君
高山 光雄 君	田邊 雅彦 君	津留 健太 君
戸谷 仁美 君	中井 詳子 君	中川 敬介 君
名川 節子 君	前田 幹太 君	松井 ゆか 君
三好 潤 君	安川 正勝 君	山内 佳紀 君
山北 秀和 君		

ご協力ありがとうございました。



～入会式～



新入会員 宇佐見 寛 君



紹介者 浅野 学 君

～外来者卓話～

『米山記念奨学事業について』

地区米山奨学委員会 副委員長
 小牧ロータリークラブ 会長 佐藤 大五郎 君



平素より米山記念奨学事業に対し、ご理解とご支援賜りまして誠にありがとうございます。

まずは米山記念奨学事業の概要から説明いたします。
 ロータリー米山記念奨学事業は、日本のロータリーが作り育てた独自の事業で、34 地区、全地区が参加する多地区合同プロジェクトです。

1952 年に事業が始まって以来、一貫して、日本で学ぶ外国人留学生を支援しています。

「公益財団法人ロータリー米山記念奨学会」というのは、この事業をおこなうために、日本のロータリーが協同して

運営する奨学財団で、財源はすべてみなさんからのご寄付で成り立っています。

この奨学金の最大の特長は「世話クラブ・カウンセラー制度」です。米山奨学生にはロータリー活動に参加してもらい、交流することを大切にしています。

カウンセラーになると、ロータリークラブの活動そのものに熱心になる方も多く、家族ぐるみの国際交流を体験することができます。

実際に、カウンセラーを終えた方の8割は「また引き受けたい/引き受けてもよい」と、回答しています。

終戦翌年の1946年、「日本のロータリーの父」と呼ばれる米山梅吉氏が亡くなりました。

3年後の1949年、戦争のため解散を余儀なくされていた日本のロータリーが、国際ロータリーへ復帰します。戦後の落ち着きを取り戻すにつれ、梅吉氏の功績を永遠に偲ぶことができるような、何か有益な事業をやるのではないかという声が大きくなってきました。

当時の日本はまだ食糧事情もはかばかしくなく、会員たちは「クラブへ行けばお茶を入れてもらえる」と、弁当を持参し、ストーブを囲みながら熱心に議論をしていたそうです。

そして1952年、東京RCが「米山基金」の構想を発表しました。これは、アジアから優秀な学生を招いて学費を援助し、二度と戦争の悲劇を繰り返さないために“平和日本”を肌で感じてもらいたい、というものでした。

この「米山基金」が、わずか5年で日本の全ロータリークラブの共同事業となり、1967年には財団法人ロータリー米山記念奨学会が設立されました。

米山奨学事業は、日本のロータリー独自の活動として作られ、発展してきました。このため、国際ロータリーとは一線を画す状況が続いていました。そうした関係が次第に変化してきたのは2000年に入ってからです。

2004年11月のRI理事会では、「奨学金の授与を通し、世界理解と平和に貢献されている財団法人ロータリー米山記念奨学会を称賛する」とされ、ロータリー米山記念奨学会が「多地区合同奉仕活動」（現在は多地区合同活動）の手続きを取ることににより、ロータリーの名称やロータリーマークを今後も引き続き使用することを認める、ということが決議されました。

2007年には全34地区からの同意を得て、RIの定める多地区合同活動として、すべての手続きを完了しました。

そして2014年1月のRI理事会では学友の定義が拡大され、米山学友も「ロータリーの学友」となりました。これを受けて、2016年のソウル国際大会には世界中から多くの米山学友が集まり、ロータリーファミリーの一員として参加したのです。

米山は、外国人留学生を対象とする民間の奨学金では、国内最大規模です。

2021学年度は、日本全国で910人（前年度883人）が採用され、各ロータリークラブでお世話をいただいています。累計では世界129の国と地域から2万2,267人を支援しています。

米山奨学生の採用は、全国統一の基準があります。

「将来の目標・留学の目的がきちんとしているかどうか」

「交流への熱意があるかどうか」

「人柄の良さ」

「コミュニケーション能力の高さ」

詳しい評価項目は公表していませんが、全国統一の評価項目を使って、各地区の選考委員会が面接選考をしています。もちろん、応募書類の審査もしています。

ロータリー米山記念奨学会は2012年に公益財団法人となり、

より一層の公平性・透明性を確保するため、このように全地区共通の選考基準で選考をしています。

そのうえで、例えば「国籍や県別割合の調整」「地区独自に実施するグループディスカッションの評価」など、地区の裁量を加えて良いことになっています。

米山奨学金はお金に困っている留学生の経済支援ではありません。

珍しい国だから、生活に困っているから、学校の成績が優秀だから。

いずれも、ただそれだけでは米山奨学生に合格しないのです。

次に、皆様からいただきました寄付金のご報告をさせていただきます。

米山奨学会への過去20年間の寄付金ですが、2001年には約17億円あった寄付金は、近年ではだいたい13～15億円となっています。

米山には、クラブから会員数分を納める形の「普通寄付金」と、それ以外に、個人・法人・クラブから、任意で支援していただく「特別寄付金」の2種類があります。

いずれも奨学事業に使用されるものですが、特別寄付金の方は、寄付をした個人や法人の実績となり、表彰の対象となります。

昨年度、2025-26年度の寄付金収入は12億9516万円（前年度13億3052万円）と、その前の年度より減少しました。

有価証券の配当金は、事前の取り決めにより、奨学金にのみ使用しています。みなさまのご寄付はほとんどが奨学金に使われていますが、奨学金以外、例えば地区や世話クラブへの補助費、事業部門の職員人件費などにも一部使われています。

米山奨学事業は、規模が非常に大きい事業であるにもかかわらず、管理費は支出のわずか3%です。

超低金利時代ということもあり、昨年度のように管理費が利子収入を超えてしまうこともあります。基本的には、利子収入で賄っていくよう努めています。

続きまして、奨学生がどのように選考されているのかを少し説明させていただきます。

2760地区は全国の地区と比較しても多い受け入れ地区となります。

（豆辞典11-12ページ）

6月に地区ごとの割り当て数が決定をいたします

次年度の寄付金収入予想に基づき全体採用人数が決定。

各地区別の割り当て人数、地区別の指定校の情報が送られてきます。

2760 地区 53 人

7月に指定校決定、米山記念奨学委員会は指定校選定委員会を開いて指定校を選定。

当奨学生にふさわしい学生を推薦していただくために学校説明会を開いています。

8月、募集スタート 学内選考

各指定校内で学内選考後、10月15日を締め切りに推薦者の申し込みをしていただきます。

11月、書類選考 面接官の選定

各行より奨学金希望学生からの申込書が送られてきます。本人の経歴・学歴、研究計画書、小論文などを自筆で書いていただいております。

指導教員からの推薦状、成績表などもつけられております。

その申込書を34地区共通の「選定基準と評価表」を用いて評価いたします。

地区面接委員の選定

同時期、地区米山記念奨学委員を中心に面接委員を選定します。

大切な奨学生を選考する上で「面接官対象オリエンテーション」を開催し、面接委員としての心得を習得し面接にあたります。

米山委員だけで足りない場合にはガバナーはじめ地区役員の方にもお願いをいたします。

(昨年度30名)

面接委員の手引きに

「**どんな奨学生を採用したかで奨学事業の価値が決まる**」とあります。

とても責任重大なお役目であります。

12月、面接試験

昨年度は申し込み人数がコロナ前に戻ってまいりまして、115名でした。(前年度89名)

7班に分かれ面接をいたします、各班午前午後で16、17名の面接を予定しており、採用人数は37名でした。これも全国共通の「選定基準と評価表」を元に評価します。

全員の面接が終わった後、選考委員会にて 本当にこの学生でいいのかと全面接官が一堂に会して検証されます。責任ある我々地区委員としましても、奨学生の募集選考は、場当たりの指定校選定や、数合わせの奨学生選考にならないように心がけております。

また、委員会としても、前もってどんな奨学生を支援したかを話し合い、合意し、ロータリアンに奨学生支援の意義や感動を具体的に伝えられるような学生を選考するように心がけております。

「選定基準と評価表」についてご説明いたします。

ロータリー米山記念奨学会は2012年1月4日をもって公益財団法人となり、公平性・透明性が求められるようになりました。

そこで34地区共通の「選定基準と評価表」が必要となりました。

まず、奨学生の募集は指定校推薦制度によって進められます。

各地区委員会が学校を指定し、優秀な学生を推薦してもらい、その学生を地区のロータリアンが選考基準と評価表を基に面接・選考するシステムです。

かつては「ロータリークラブ推薦制度」がありましたが、推薦欲しさにロータリアンに近づく不届きな応募者が出るなどの問題から1998学年度から廃止され、2002学年度採用から指定校推薦制度が導入され現在に至っております。

・ロータリー米山記念奨学事業の使命は、留学生の優れた学業の達成を支援し、同時にカウンセラーや世話クラブとの交流を通じ、ロータリー精神を学び、国際理解を深め日本と母国との架け橋となるなど国際親善に尽くす人材を育てることにある。

そのために求められる米山奨学生の資質は「学業」「異文化理解」及び「コミュニケーション能力」における熱意や優秀性である。

■**学業に対する研修の目的、目標を明確にし成果を上げる努力をしているか？**

■**異なる文化、習慣などを理解する努力をしているか？**

■**言語のみならず、人間関係における円滑なコミュニケーションを築き、自己の確立と共に他社を受け入れる柔軟な姿勢をもつかどうか？**

このあたりを意識し選考材料の一つとしております。

よくある質問として 国籍が偏っていないか？ ということを言われます。

結果からしてみても留学生の国籍比率に比例してしまうので、どうしても現在留学生の多い国籍の学生が多くなってしまいます。

以上、短い時間ではございましたが、米山記念奨学事業のご説明でございました。

今後とも米山記念奨学事業に対し、ご理解とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

